

人々の愛情によって
助けられた
奇跡の桜

飛騨高山

莊川桜



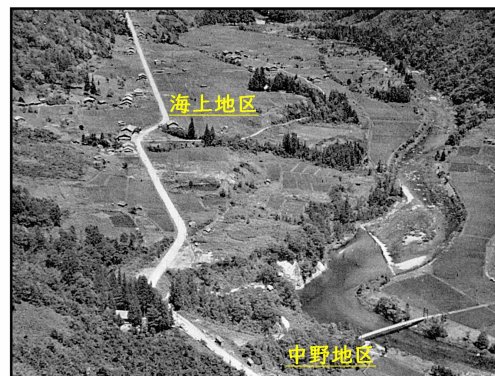
第2次世界大戦後の経済復興のまっただ中 深刻な電力不足解消において

昭和27年（1952年）9月16日 国策会社として電源開発（株）が設立され、戦前の電力王「松永安左エ門」氏の後押しで「高碕達之介」氏が初代総裁に就任。
同年10月18日 御母衣ダム建設基本計画が告示される。

荘川村の概ね1/3に当たる5集落、岩瀬、赤谷、中野、海上、尾上郷・牛丸の一部と白川村の尾神、秋町、福島が水没対象集落。

荘川村の昭和40年調査 水没関連移住者 248戸 凡そ1,200名
主な転居先 郡上郡36% 岐阜市19% 高山市19% 名古屋市13%
荘川村及び白川村1.6%。その他岐阜県内外11.4%

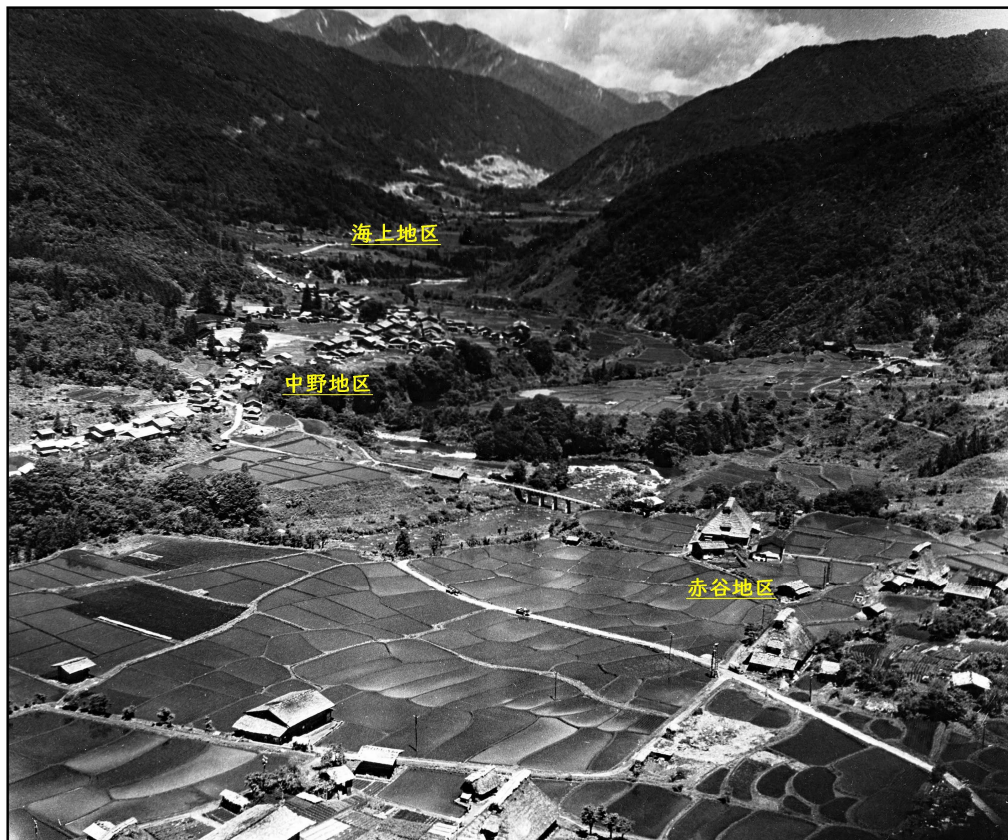
（荘川村は、平成17年市町村合併により高山市荘川町となる）



中野地区～海上地区



赤谷地区～岩瀬地区



赤谷地区～中野地区～海上地区



岩瀬地区



中野地区

旧 矢筈原家住宅
国指定重要文化財 1956.06.28 指定
岩瀬地区より横浜三溪園に移築された、
入母屋造りの萱葺き屋根を持つ大型の
民家で当時の荘川村では最大の住宅。
屋根の妻には、火打窓が取り付けられ
る等庄屋として格式の高さが多くみら
れる。
また、岩瀬地区対岸の下滝地区より合
掌造りの若山家が飛騨の里に移築され
1977年6月27日「国指定重要文化財に指
定されている。

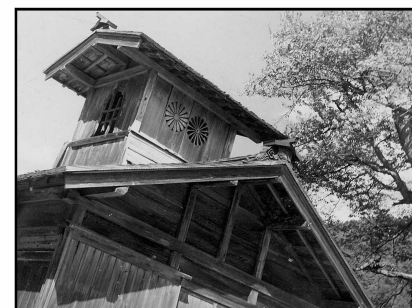


横浜三溪園に移築された「旧 矢筈原家住宅」

水没対象地区中野には、伝統文化の伝承・地域コミュニティの場となり飛騨地方の浄土真宗発祥の中心であった古刹「照蓮寺」と代々名主を務めていた「光輪寺」の境内に住民に親しまれている見事な桜があった。



永正元年(1504年)白川郷より中野に移転新築 照蓮寺開基



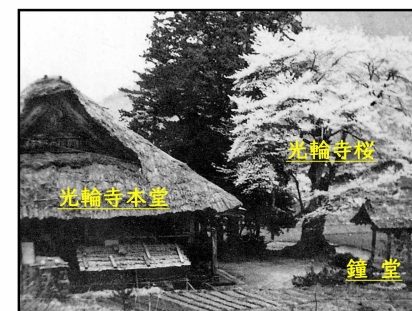
照蓮寺 太鼓堂と桜



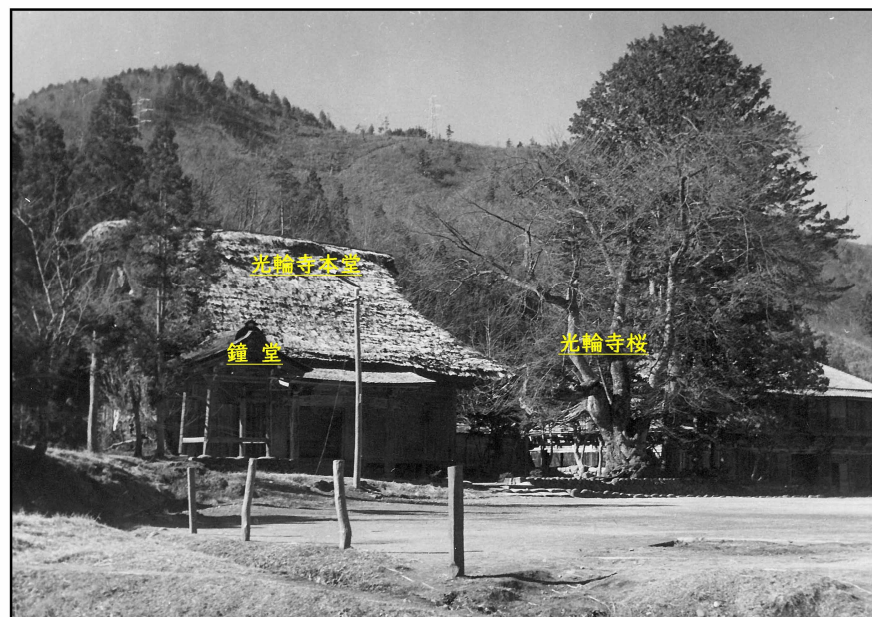
照蓮寺本堂と鐘堂



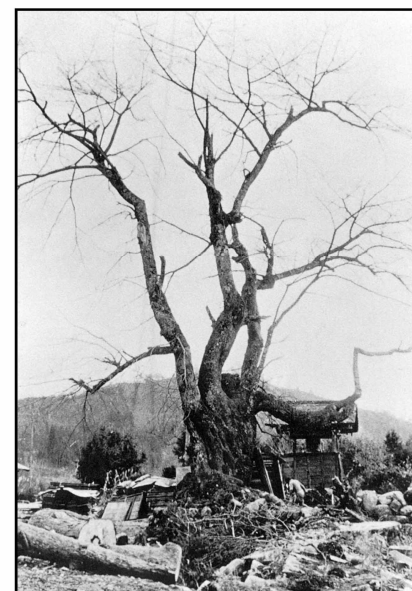
照蓮寺 千重つつじ



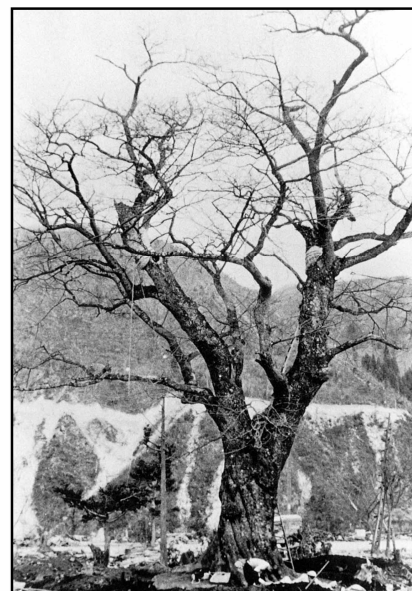
光輪寺本堂、鐘堂、桜



延徳元年(1489年) 光輪寺開基



移植前 光輪寺桜



移植前 照蓮寺桜

昭和28年(1953年)1月13日 御母衣ダム絶対反対期成同盟死守会を174世帯で結成し、以後、純粋で熾烈な反対運動を7年間にわたり展開する。

昭和31年(1956年)5月8日 電源開発(株)より補償の基本姿勢「幸福の覚書」が提示され、両者が歩み寄るきっかけとなり合意に向けた協議が続けられる。

「幸福の覚書」

御母衣ダム建設によって立退きの余儀のない状況に相成ったときは、貴殿が現在以上に幸福と考えられる方策を、我社は責任を持って樹立し、之を実行するものであることを約束する。

電源開発 副総裁、 死守会 会長様

昭和32年(1957年)6月 御母衣ダム本工事着手

貯水量3億7000万 m^3 高さ131m 長さ405m 東洋一のロックフィルダム

ダム工事にはアメリカ製の大型重機が投入された



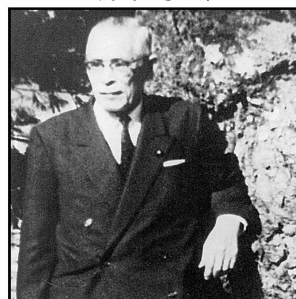
昭和34年(1959年)11月22・23日 「御母衣ダム絶対反対期成同盟死守会」解散式。

11月23日、高崎氏は死守会解散式後、湖底に沈む集落を散策中「光輪寺」境内で巨木の桜を目にし、「故郷を偲ぶすが」として移植を決意し神戸市在住の笹部氏に桜の移植を相談。高崎氏の「桜を何としても助けない」という高崎氏の情熱にほだされ、笹部氏はもし失敗したら以後桜に関して決して語るまいという強い決意をもってただちに現地に赴き、光輪寺より約400m離れている「照蓮寺」の桜も含め2本同時移植を提案。世界史上例のない老桜の移植が決定した。

昭和35年(1960年)10月ダム完成。翌年1月の試験運用において貯水が始まるなか、両樹が落葉した休眠期間で雪空を迎える厳しい時期に作業を開始する。

◆ 荘川桜移植に語り継がれる桜守 ◆

高崎 達之介



明治18年(1885年)2月7日大阪府高槻市柱本出生。旧制茨木中学卒業。
農商務省水産講習所(現東京海洋大学)卒業。
大正6年(1921年)東洋製罐(株)設立。
昭和12年(1937年)満州重工業開発(株)副総裁に就任。
昭和22年(1947年)帰国 東洋製罐(株)相談役に就任。
昭和27年(1952年)9月16日 電源開発(株)初代総裁就任。
昭和29年(1954年)8月 電源開発(株)総裁辞任。
第1次鳩山内閣経済審議庁(後の経済企画庁)長官就任。
電源開発(株)総裁辞任後も御母衣ダムの建設反対派住民との対話を続ける。
昭和30年(1955年)大阪3区より衆議院議員に当選。
昭和33年(1958年)第2次岸内閣通商産業大臣就任。
日ソ漁業交渉の政府代表となる。
昭和34年(1959年)科学技術庁長官・原子力委員会会長就任。
昭和39年(1964年)2月24日逝去 79歳 荘川桜の小枝が棺に納められる。

笹部 新太郎



明治20年(1887年)1月15日大阪市北区堂島出生。堂島中学校(現北野高校)を経て東京帝国大学法科(現東京大学)卒業。以後独学で桜を研究。
兵庫県宝塚市武田尾(亦楽山荘(えきらくさんそう))に約60万 m^2 、京都府向日町(現向日市)に約1万 m^2 の演習林を開設し、膨大な私財を投じて桜の研究と保護に一生をかけた。
大阪造幣局の桜管理指導、江若鉄道近江舞子の千本桜の植樹、吉野山の桜の管理指導等数々の功績を残す。
昭和34年(1959年)高崎氏より荘川桜の移植に関し相談を受ける。
昭和35年(1960年)荘川桜移植を手掛ける。
昭和36年(1961年)京都府向日市の演習林が名神高速道路建設のため閉鎖。
昭和44年(1969年)5月 水上勉の小説「櫻守」のモデルとして刊行される。
昭和53年(1978年)12月19日 91歳にて逝去。
見事活かし十分に枝を伸ばした満開の「荘川桜」を目にしたのは笹部氏のみである。膨大な桜研究の資料が「財団法人白鹿記念酒造博物館」に保管・展示されている。

丹羽 政光



明治41年(1908年)愛知県東春日井郡(現小牧市)出生。
昭和2年(1927年)庭正工務店設立。
昭和13年(1938年)軍に徴用される。
愛知県豊橋海軍航空隊大崎基地で、滑走路の整備に当たる。
特攻隊が一人飛び立つたびに基地に桜の苗を植え、敗戦までに200本以上の桜になった。
昭和29年(1954年)頃より佐久間ダム等の造園工事に携わる。
昭和31年(1956年)庭正造園設立。
昭和35年(1960年)荘川桜移植に携わる。
昭和40年(1965年)57歳にて逝去。
東海一の植木職人といわれていた。

昭和35年(1960年)11月15日 笹部新太郎氏の指導のもと、(株)庭正造園
丹羽政光氏によって移植作業が開始された。



中央 笹部氏 右端 丹羽氏



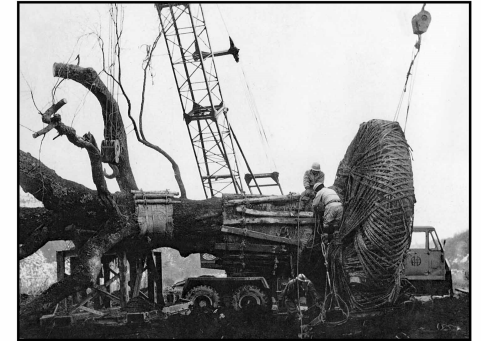
根切り作業と根巻き



職人の技 根巻き



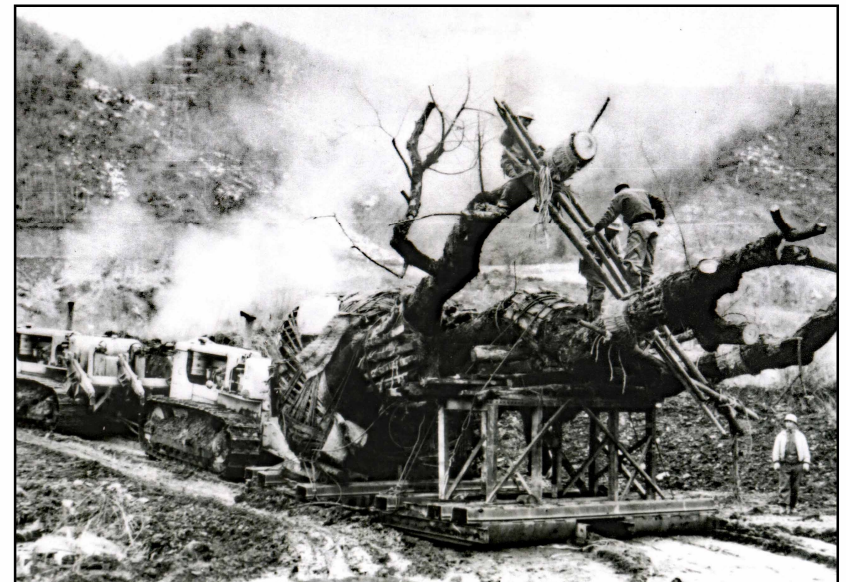
当時としては大型の15tクレーン2台、30tブルドーザー2台、40tブルドーザー
1台が使用され、特製鉄ぞりに載せてコロを使い現在地まで凡そ1000mの仮設
された道を引き上げた。



光輪寺桜の根巻き(中央)
と特製鉄ぞり(下)
解体中の中野小中学校(上右)



大枝を切り落とし、根を縮められ、原型をとどめていない丸坊主の桜をブルドーザーで引き上げた。



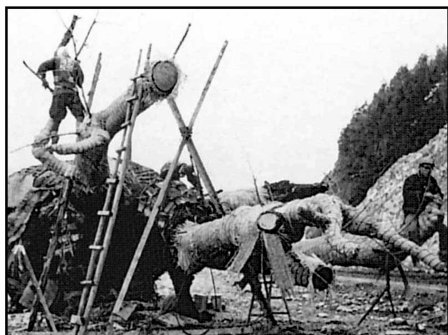
飛騨 荘川桜

HIDA SHOKAWA ZAKURA

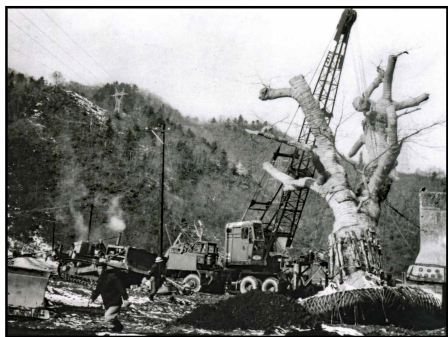
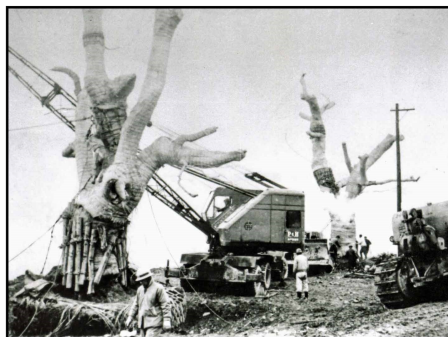
桜が舞う 星が降る
山は紅く やがて白く
飛騨 荘川

時には雪が舞う厳しい40日間の突貫作業により昭和35年(1960年)12月24日移植作業完了。事業費約450万円。御母衣ダム建設の(株)間組の職員の応援も含め作業員総数延べ1,000人にも及んだ。

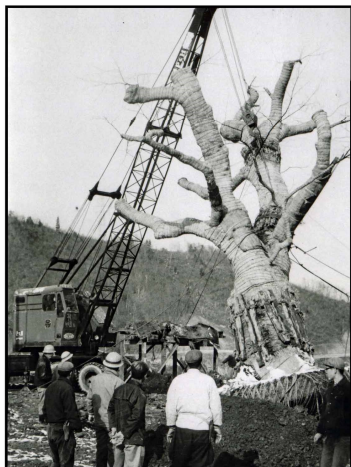
風雪、寒風などにより樹皮の枯損や亀裂等を防ぐためコモを巻き付け、丹羽氏は、腐敗防止のため幹・枝の切り口にコールタールを塗布した。



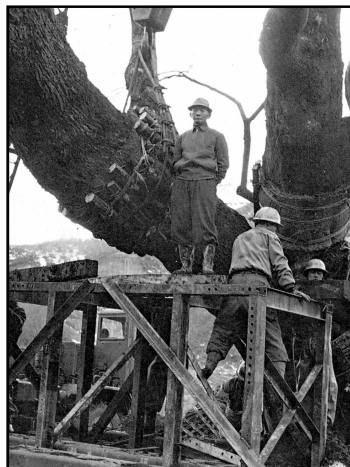
クレーン車、ブルドーザーを駆使して、幹回り凡そ5~6m、重量40tあまりの巨桜を建て込む



クレーン能力限界での作業



陣頭指揮をする丹羽氏

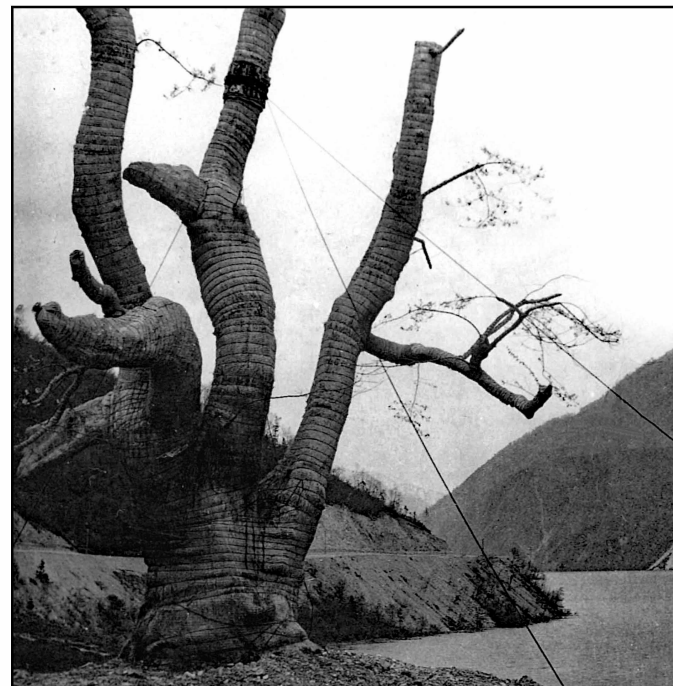


昭和36年(1961年)5月、厳冬を乗り越え芽吹き春を迎える。

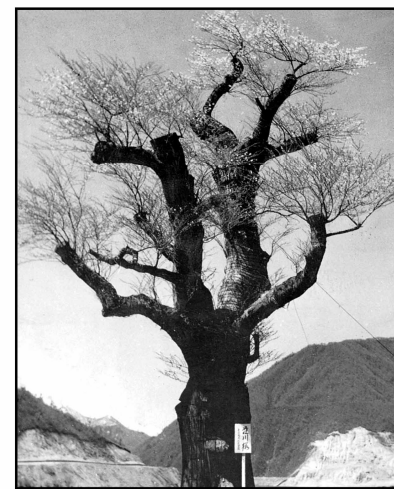
残しておいた小枝が花を付けた感動の時!

しかし、切り口やコモ目を突いて新たな枝を出し、年毎に枝葉が旺盛に伸びなければ活着したとは言い切れない。

丹羽氏は、コールタールの足し塗、散水等の養生にいそしんだ。



多くの桜を愛する人々の愛情と期待に桜は見事に応えた。



移植数年後の光輪寺桜(左)と照蓮寺桜(右)

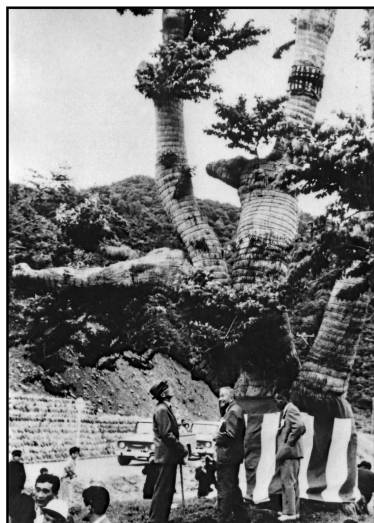
昭和36年(1961年)1月14日、試験運用を開始、同年10月24日「御母衣ダム竣工」総工費415億2千6百万円。

昭和37年(1962年)6月12日「水没記念碑除幕式」

桜は旺盛に枝を伸ばし活着した。高碕達之介元総裁、藤井崇治総裁、笹部新太郎氏、丹羽政光氏、地元住民500名余りが故郷を偲び参集した。



根付いた「光輪寺桜」の下で
右より高碕氏、笹部氏、丹羽氏



根付いた「照蓮寺桜」の下で
右より丹羽氏、高碕氏、笹部氏



電源開発(株) 藤井崇治第4代総裁が、根付いた桜2本を莊川桜と名づける。



昭和36年(1961年)5月
佐々木氏の歌碑が設置される。

「すすみゆく御代のしるしと うまれても
莊白川の名をとこしへに」
佐々木信綱作 高碕達之介書

昭和38年(1963年)5月
高碕氏の歌碑が設置される。

「ふるさと水底(湖底)となりつ
うつし來にこの老桜 咲けとこしへに」

高碕達之助作 藤井崇治書

※高碕氏は(湖底)と読み、藤井氏は水底と書いた



歌碑と柵が設置され整備された莊川桜周辺



光輪寺桜

樹 種 アズマヒガンザクラ（エドヒガンザクラ）
幹周り地上1.3m 594 c m 樹高 15.0m（平成6年4月）

光輪寺

開基：1489年（延徳元年）
当初は、白川郷岩瀬村（現荘川町岩瀬）にあったが、いつの頃から中野に移り代々名主として村役人を務める。嘉念坊善俊とともに白川郷に入った市村太郎右衛門兼政の子孫。昭和35年岐阜県関市清蔵寺町に移転

照蓮寺桜

樹 種 アズマヒガンザクラ（エドヒガンザクラ）
幹周り地上1.3m 485 c m 樹高 16.0m（平成6年4月）

照蓮寺

開基：嘉念坊善俊上人（後鳥羽天皇第12皇子）が白川郷鳩谷（現白川村鳩谷）に飯島道場を開き、建長5年（1253年）正蓮寺創建。
文明7年（1475年）第9世明教は域内を治めていた内ヶ島家との闘争に敗れるが明教の第1子亀寿丸（2歳 後の明心）は、嘉念坊善俊に従って代々主家として仕えた市村太郎右衛門と共に北陸に逃れた。数年後、真宗中興の祖「蓮如上人」が越前吉崎に滞在していたおり内ヶ島家との和議を進める。
永正元年（1504年）第10世明心（亀寿丸）が白川郷飯島より正蓮寺を中野に移築。寺社名を改め「照蓮寺」を開基。寺社名は蓮如の長子「実如」が書き与えた。天正16年（1588年）金森長近の命により高山城下に移転（現高山別院照蓮寺）以後、高山御坊照蓮寺掛所として残り、中野照蓮寺（中野御坊）と呼ばれる。昭和36年5月（1961年）高山城二の丸跡に移築、城山照蓮寺と呼ばれている。本堂は真宗寺院では最古の遺構といわれ、室町時代の寺院建築様式を備えていることから、昭和41年（1966年）国の重要文化財に指定された。

昭和41年（1966年）12月13日 岐阜県天然記念物に指定される。



ふるさと友の会発足

昭和45年（1970年）3月「ふるさと友の会」が岐阜市東別院で発足される。当初は婦人達の集まりであったが、年を重ねる毎に賛同者が増えダム建設賛否の分けへだてなく故郷の友として集い、近況を報告しあい、湖底に沈んだふるさとを偲び友好を深めた。昭和47年（1972年）5月3日より荘川桜の下で開催され共に手をつなぎ荘川民謡を踊り、湖面に花を浮かべ湖底の故郷に詫び涙した。しかし、移住者高齢化のため参加者が減少、平成5年（1993年）やむなく解散となった。



照蓮寺桜を囲んで荘川民謡を踊る「ふるさと友の会」

♪ 中野御坊は嘉念坊様の み墓どころか ありがたや
♪ 踊らまいかよ中野の御坊で 千重つつじを中にして
(荘川民謡の一節より)

荘川桜2世植樹 昭和59年（1984年）

昭和50年春、移植した2本の荘川桜が実を結び実生桜が自生した。電源開発(株)御母衣電力所有志が採集した苗を、ふるさと友の会若山会長に送り、岐阜で育てられて1m以上に成長した苗木をふるさと友の会10周年記念事業の一環として、昭和54年（1979年）「ドライブインみぼろ湖」に移植。故郷の地で精根こめて育てられ花が咲くほどに成長したのを機会に、二世桜として荘川桜の近くにとの厚い願望があり、昭和59年（1984年）11月26日、荘白川村長、ふるさと友の会、ドライブインみぼろ湖、電源開発(株)他、関係者が自らの手で荘川桜公園駐車場内に移植された。



春



夏



秋



冬